

IV 学習指導計画作成上の留意点

1 学習指導計画立案の例

保健学習指導案の形式

(第〇学年〇組)	体育科	(保健領域)	学習指導案	←小学校
↑	保健体育科	(保健分野)	学習指導案	←中学校
* 小学校の場合	保健体育科	(科目保健)	学習指導案	←高等学校

	平成〇〇年〇月〇日 (〇)	第〇時限	活動場所
* 中学校・高等学校の場合→	(第〇学年〇組)	男子 名	女子 名
	指導者	教諭 ○○	○○
		養護教諭 ○○	○○

1 単元名 「 」 ●…単元名は学習指導要領に示す内容項目を記入する。

小学校は (1)、(2) など
 中学校は (1) または ア など
 高等学校は ア、イ など

2 単元について ●…学習指導要領や同解説に示された内容や今日的な課題等を踏まえて、具体的な単元の目標と内容を引き出す手がかりとする。

- 〈ポイント1〉
- ◇ 単元の内容の概要を述べる。
 - ◇ 児童生徒にとって、この単元での魅力は何かを明らかにする。
 - ◇ 単元を通して、児童生徒のどのような変容が期待できるか。どのような力を身に付けさせるかを明らかにする。

3 児童（生徒）の実態 ●…この単元に関わる児童生徒の実態を明らかにする。また、授業を計画する上で必要な生活全般における実態も併せて書く。（関心・意欲・態度、思考・判断、知識・理解等）

- 〈ポイント2〉
- ◇ 表やグラフを用い、分かりやすく表示するとよい。

4 教師の指導観 ●…児童生徒の実態を踏まえ、一人一人に対してこの単元を通して、どのように健康に対する関心・意欲を高め、思考力・判断力を育て、知識を身に付けさせていきたいかを具体的に明らかにする。

5 単元の目標 ●…学習指導要領及び同解説を踏まえるとともに、評価規準とも関連させ、観点別に目標を設定する。

- (1) ……について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。
【関心・意欲・態度】
- (2) ……について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、（小：実践的に、中：科学的に、高：総合的に）考え、判断し、それを表すことができるようにする。
【思考・判断】
- (3) ……について、課題の解決に役立つ（小：基礎的な事項、中：基礎的な事項（及びそれらと生活との関わり）、高：基礎的な事項及び（それらと生活や社会との関わり））を理解することができるようにする。
【知識・理解】

- 〈ポイント3〉
- ◇ ……の部分に、単元名（小単元名）具体的な内容を明記する。
 - ◇ 表記については、上記の内容をもとに作成する。

6 評価規準

●…「学習指導要領、同解説」「国立教育政策研究所教育課程研究センター評価規準の作成のための参考資料（平成23年11月・平成24年7月）評価規準に盛り込むべき事項・評価規準の設定例」「埼玉県教育委員会発行の資料」等を参考に各学校で作成した評価規準を示す。

- * 別紙で作成されている場合、別添にしてもよい。
- * 観点間の表現の重複、似た表現を避ける。
- * 「おおむね満足と判断できる状況」を評価規準として示す。
- * 中・高等学校は、内容のまとまりが大きいため小単位について記入する。
- * 「学習活動に即した評価規準」は、文末に特徴的な姿を表す動詞を用いる。

	単元の評価規準		学習活動に即した評価規準
関心・意欲・態度	評価規準	留意点	① ～するなどの学習活動に（小学校：進んで、中学校・高等学校：意欲的に）取り組もうとしている。
思考・判断	単元の評価規準	学習指導要領を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」を参考に作成する。	① ～課題や解決の方法を見付けたり選んだりするなどして、それらを説明している。 ② ～学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、（中・高：筋道を立てて）それらを説明している。
知識・理解	学習活動に即した評価規準	学習指導要領を踏まえ、「評価規準の設定例」を参考に、授業をイメージして作成する。単元の評価規準との整合性をとること。	① ○○が□□であることについて、（小学校：言ったり、書いたり）（中学校：言ったり、書き出したり）（高等学校：発言したり、記述したり）している。

7 単元の指導と評価の計画（全4時間） 本時は○印

時	学習のねらい・活動	関・意・態	思・判	知・理	評価方法
1	I ねらい ※本時の評価がある観点のところを示す。 II 学習活動 1 3 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">指導すべき内容 ○○には、□□があること</div> 4	①		①	話し合いの観察 ワークシート
②	I ねらい ※本時の評価がある観点のところを示す。 II 学習活動 1 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">指導すべき内容 ○○には、□□があること</div> 3 6		①	②	発言・話し合いの観察 ワークシート

〈ポイント3〉

学習内容を明確にする観点から

- ◇ 学習活動については、学習指導要領解説の内容は必ず「指導すべき内容」として取りあげる。
- ◇ 評価については、単元を通じて評価を重点化（1単位時間の評価の観点は、多くて2個）する。
- ◇ 評価欄には、「学習活動に即した評価規準」（関・意・態①、思・判②、知・理③等）を示す。

8 本時の学習と指導 (2/4)

(1) ねらい

- ・ ~できる。
- ・ ~できる。

【思考・判断】
【知識・理解】

(2) 資料および準備するもの・・・本時に使用する資料・用具等を示す。

(3) 展開

時間	学習内容・活動	指導上の留意点 (指導○ 評価規準◆)
導入 ○分	1 ○○について、○○する。	○
展 開 ○分	2 ○○について、○○する。 Q1 だろうか?	○ ○ ○ <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習内容の定着、学習活動の充実のために教師が指導・支援、配慮することを具体的に示す。 </div>
	3 ○○について、○○する。 Q2 だろうか?	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 「思考を揺さぶる発問」「知識を定着させる発問」を示す。 </div>
	<予想される反応> . . .	◆ 【評価の観点】 評価の観点がある場面には、 努力を要すると判断できる状況 (C) の児童生徒への指導の手だてを具体的に明示する。
	4 ○○について、○○する。 指導すべき内容 ・○○には、□□があること	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習内容を明確にする観点から、解説レベルでの指導内容を記入する。 </div>
	5 ○○について、○○する。 Q3 だろうか?	○ ○ ◆ 【評価の観点】 評価の観点がある場面には、 努力を要すると判断できる状況 (C) の児童生徒への指導の手だてを具体的に明示する。
まとめ ○分	6 ○○について、○○する。	○ ○ <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> ねらいに戻る。 本時に何を身に付けたのかが分かるまとめにする。 </div>

〈ポイント4〉 指導内容を「指導すべき内容」として記入する。また、学習指導要領締約の文末の語尾を理解して授業をつくる。

- ・ 「理解できるようにする」→必ず教えるべき内容 (指導内容)
- ・ 「必要に応じて扱う程度とする」「関連付けて扱う程度とする」→伝える程度
- ・ 「触れるようにする」「適宜触れるようにする」→主たる学習内容を教えた上で扱う内容
- ・ 「取り上げる」→必ず取り扱う。 ・ 「適宜取り上げる」→選択して取り扱う。

9 資料等

- 本単元 (本時) で使用する学習資料・学習カード等を添付する。
- 板書計画等を記入する。

2 実践事例1 <保健学習>

(藤市立第一中学校)

保健体育科(保健分野)学習指導案

平成27年11月5日(木) 第5時限 体育館
第3学年5組 男子18名 女子19名
指導者 教諭 咲間 悟

1 単元名 「健康な生活と疾病の予防」 イ 生活行動・生活習慣と健康

2 単元について

日本人の死因のうち、およそ3人に1人という高い割合を占め、生涯の中で2人に1人がかかるといわれている「がん」は、わが国における重要な健康課題となっている。

わが国では、「がん対策基本法」が施行され、これに基づき、「がん対策推進基本計画」が決定された。その中では「がん患者を含む国民が、がんを知り、がんと向き合い、がんに負けることのない社会」を目指すこととしている。これまで学校では健康の保持増進と疾病の予防といった観点から、がんの予防も含めた健康教育に取り組んできたが、がんそのものやがん患者に対する理解を深める教育は不十分であり、今後、健康教育全体の中でがん教育をどのようにするべきかを検討していくとしている。子供に対しては、健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識を持つよう教育することを目指すという個別目標も示されている。

「健康な生活と疾病の予防」(本単元)では、人間の健康は、主体と環境がかかわり合って成り立つこと、健康を保持増進し、疾病を予防するためには、それにかかわる要因に対する適切な対策があることについて理解できるようにする必要がある。

このため、本単元のうち「イ 生活行動・生活習慣と健康」では、健康と生活行動は深くかかわっており、食生活、運動、休養及び睡眠のそれぞれと健康との関係について理解できるようにさせる。また、健康を保持増進するためには、調和のとれた生活を続けることが必要であること、不適切な生活習慣はやせや肥満などを引き起こしたり、生活習慣病を引き起こす要因となったりし、生涯にわたる心身の健康に様々な影響があることについても理解できるようにさせる。

本単元で扱う生活習慣病には、肥満や糖尿病、高血圧、脳卒中、心臓病などを取り上げて扱い、それぞれの疾病について、原因や予防について理解できるようにさせる。また、特に近年我が国の重要な健康課題となっているがんについては特別に取り上げて扱うこととした。

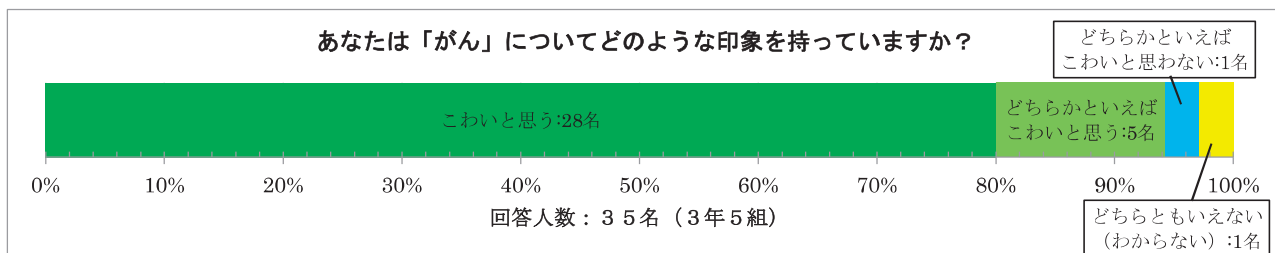
がんは身近な病気であるということを理解させ、がんの予防や早期発見・検診についての関心を持ち、正しい知識を身に付けた上で適切な対処ができるようになることを目指している。主に「がんとは(発生要因)」「疫学」「予防」「早期発見・検診」について扱うこととする。

3 生徒の実態

本学級は、明るく活発な雰囲気、授業における話し合いや発言にも積極的な生徒が多い。保健学習の授業においては、健康への関心が高く、意欲的に取り組むことができている。説明を聞いて課題に集中して取り組むこともできるが、特に班での話し合いなど思考を働かせるような活動を好む生徒が多く、意欲的に取り組むことができる。しかし、活動が度を越して盛り上がり過ぎてしまったり、発言が質問のねらいから逸れ、周囲の笑いを誘うことをねらったりする生徒が見られることもあるという課題もある。

本単元の学習においては、ねらいを明確に持ち、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組ませることを重視し、仲間とともに協力して行う学習活動を通して必要な力を身に付けさせていく必要があると考える。

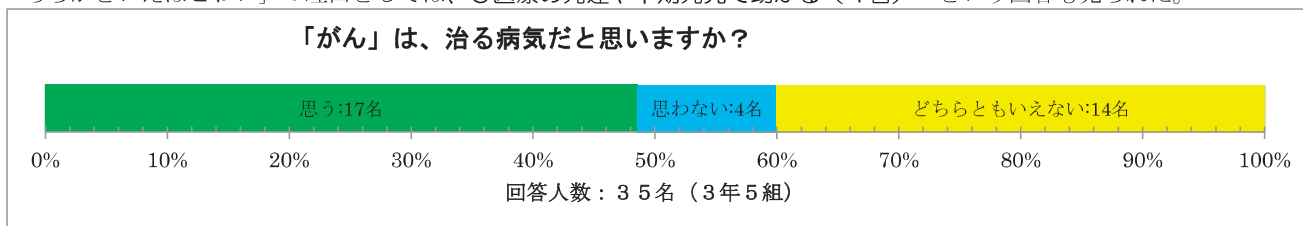
事前アンケートの結果によるがんに対する生徒の実態は、以下のとおりである。



上記の質問の回答のうち「こわい/どちらかといえばこわい」理由として、

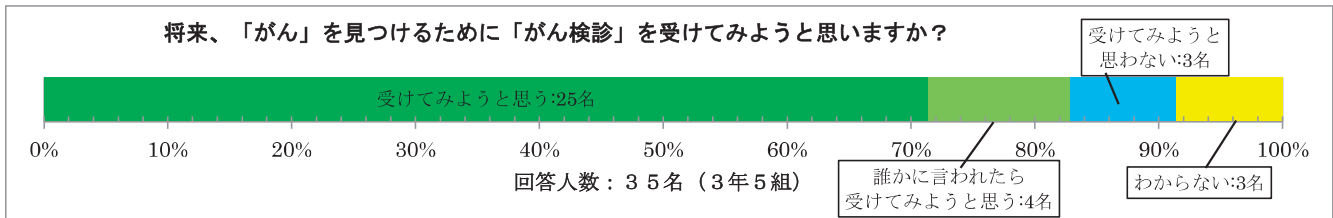
- 命の危険、死のイメージ(19名)
- 苦しい、治療が辛いなどのイメージ(7名)
- 治らない病気というイメージ(6名)
- 自覚症状、早期発見、転移などの不安(5名) など。

一方「こわいと思わない」という回答は0であり、「どちらかといえばこわい/どちらともいえない」の理由及び「こわい/どちらかといえばこわい」の理由としては、○医療の発達や早期発見で助かる(4名) という回答も見られた。



上記の質問の回答の理由として、

- 早期発見により治る(6名)
- 治療や医療の進歩次第(8名)
- 身近に治った人がいる(2名)
- 気持ちの影響(4名)
- 転移のため治らない(4名)
- 治ったという話を聞いたことがない(2名)
- △ わからない(1名)
- △ 進行などによりどちらともいえない(13名) など。



上記の質問の回答のうち「受けようと思う／誰かに言われたら受けようと思う」の理由として、
 ⇒早く見つけたい（14名）、自分や家族を守るためなど（10名） など。

「受けようと思わない／わからない」の理由としては

「まだ、大丈夫」「自分はならないと思う」「考えたことがない」「面倒くさいし、がんが見つかってもし手遅れ」「見つかったらいやだ」などがあつた。

その他に、「家族、親戚など身近な人でがんにかかった人がいますか？」という質問に対しては「家族（1名）」「祖父母など含む親戚（10名）」「その他（1名）」「いない（23名）」であつた。なお、家族と回答した生徒については、母親と祖母がかかったが、早期発見により治癒したということであつた。

以上、事前のアンケートの結果からは、がんに対するマイナスイメージは大きく、不安を感じている生徒が多いということがわかつた。また、早期発見により治癒するという知識を持っている生徒が多いということがわかつた。記述回答の中から、予防に関する回答は見られなかつた。

全体として、がんの認知度は高く、こちらが想像していた以上に関連する知識も持っていることがわかつた。しかし、テレビ番組（ドラマなど）で得た知識やイメージが大きく、漠然としたものであり、がんという「病気に対する不安や病気そのものに対する関心はあるものの、現在の自分や自分の生活とは結びついていない生徒が多い印象を持った。生徒の実態からも「がんについて正しく理解し、予防について考えさせる」必要性は高く、生徒一人一人が自分の問題として捉えさせていく必要がある。

4 教師の指導観

これまで、保健学習を進めていくうえで、できる限り生徒が思考と判断を働かせて主体的に活動する参加型授業にこだわって取り組んできた。

保健学習の内容の多くは、自分自身に大きくかかわるものや身近な課題であり、本来であれば興味・関心の高い内容であるにもかかわらず、小学校での既習事項の発展や一般常識など、すでに知っている内容のものが多いため、教師主導の講義型授業、いわゆる受け身の授業では消極的な取り組みとなる生徒が多く見られたという実態があつた。

そこで知識を活用する学習活動など生徒の主体的な活動を積極的に取り入れる授業展開の工夫を行うことにより、生徒一人一人に出番があり、当たり前になつてしまつた内容についても個人やグループで出し合うことで関心を持たせ、活動の中で思考や判断を働かせることにより、科学的な理解へつなげていこうと考えた。個人やグループで出し合った内容や導き出した答えから、自己の課題に気付くことにより、理解の深まりや実践力の育成に繋げていきたいと考えた。

本単元「生活行動・生活習慣と健康」においては、「健康的で適切な生活行動」への理解を深めさせるために、あえて逆の視点から、「疾病へつながるような生活行動」などについて考えさせる活動を取り入れるなどの工夫をおこなつた。

今回、新たな取り組みとして生活習慣病のうち「がん」についての内容を特別に抜き出して授業を行うこととなつた。これまでも一般的な生活習慣病の一つとして扱ってきたが、我が国の重要な健康課題とされている「がん教育」についてどう扱っていけばよいか、授業を計画する上でさまざまな葛藤があつた。

生徒にとって「がん」とは、他の学習内容同様、よく耳にする単語であり、なんとなく漠然とした知識やイメージを持っているものである。しかし、実際にアンケートを行つてみると間違つた知識や無関心が顕著であつた。そこで今回の授業実践においては「がんを正しく理解し、予防について考える」ことをねらいとして取り組んでいこうと考えた。

これまで同様、生徒の主体的な学習活動を中心とした授業展開を考えたが、今回「調和のとれた生活と生活習慣病」の発展として「がん」を1時間扱いで取り組むにあたり、がんを正しく理解させるには、指導すべき学習内容が多く、どうしても教師主導の講義型の学習活動が中心となつた。そこで、「がん教育」の授業においては、導入において、ブレインストーミングと分類を活用することで、前時までの学習内容である一般的な生活習慣病とがんとの共通点と違いについて、着目させ、そこで出てきたがんへの不安やこわさ、疑問などを講義型授業の中で少しずつクリアにしていくことで正しい理解につなげていきたいと考えた。また、まとめでは身に付けた知識を活用して、身近な人や自分の生活に目を向けさせ、がんの予防について考えさせる中で理解の深まりや今後の実践につなげていきたいと考えた。

なお、「学校におけるがん教育の在り方について報告（平成27年3月）」にもあるように「がん教育」はがんをほかの疾病等と区別して特別に扱うことが目的ではなく、がんを扱うことを通じて、ほかの様々な疾病の予防や望ましい生活習慣の確立も含めた健康教育そのものの充実を図るものでなければならないとされている。そこで、今回の実践では、がんは放っておけばこわい病気であるという生徒が持つイメージを利用して、正しい知識のもとに生活習慣の改善や早期発見などに取り組みばこわい病気ではないというイメージにシフトしていけるようにしたい。同時に生活習慣病では、なかなか自分には関係ないと感じ、課題に向き合えていなかった生徒についても、現在の生活習慣を見直し、改善していくことは自分の将来に大きくかかわる重要なことであるという意識を高めさせ、実際の行動へつなげていくなど実践力の育成を図ってきたい。

5 単元の目標

(1) 生活行動・生活習慣と健康について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。

【関心・意欲・態度】

(2) 生活行動・生活習慣と健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。

【思考・判断】

(3) 生活行動・生活習慣と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活との関わりを理解することができるようにする。

【知識・理解】

6 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の観点別評価規準

	ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての思考・判断	ウ 健康・安全についての知識・理解
単元の評価規準	生活行動・生活習慣と健康について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	生活行動・生活習慣と健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	生活行動・生活習慣と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活の関わりを理解している。
学習活動に即した評価規準	①生活行動・生活習慣と健康について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ②生活行動・生活習慣と健康について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①生活行動・生活習慣と健康について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ②生活行動・生活習慣と健康について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	①食生活と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ②運動と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ③休養及び睡眠と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ④調和のとれた生活と生活習慣病について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ⑤がんの発生要因とその予防について理解したことを言ったり、書き出したりしている。

(2) 単元の指導と評価の計画 (全5時間) 本時は○印

時間	学習のねらい・活動	評価規準			評価方法
		関・意・態	思・判	知・理	
1 食生活と健康	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活行動・生活習慣と健康について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立てて説明できる。 食生活と健康について理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。 <p>II 学習活動</p> <p>1 健康を保持増進するための食生活について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康的な食生活と不健康な食生活の2つのいずれかについてグループで考え、発表する。 [○健康的な食生活 ・ ×不健康な食生活]とは…?(どちらか1つ) 班で話し合ってみよう。 <p>〈予想される反応〉 ○健康的 ×不健康 ○毎日3食 ○規則正しく同じ時間 ○野菜をたくさん摂る ○好き嫌いをしない ○バランスよく ○腹八分目 など ×間食をたくさん摂る ×食べない ×食べすぎ ×偏食 ×肉ばかり ×ファーストフードばかり など</p> <p>2 健康を保持増進するための食事や配慮すべきこと、運動に応じたエネルギーの補給について説明を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【指導すべき内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康な生活や疾病の予防には、毎日適切な時間に食事をすることが大切であること。 年齢や運動量に応じて栄養素のバランスや食事の量などに配慮する必要があること。 運動によって消費されたエネルギーを食事によって補給することが必要であること。 </div> <p>3 自分の食生活について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活の課題と今後の改善点について考え、発表する。 ①自分の食生活の課題(よくない所)と②これからできる改善策(気を付ける所)を考えてみよう。 <p>〈予想される反応〉 ①朝食を摂らない時がある/間食が多い/好き嫌いがする/インスタント食品が多い/食べ過ぎてしまう など ②朝食を必ず摂る/間食を控える/バランスよく野菜も摂る/食べ過ぎないようにする/よくかんで食べる など</p> <p>4 本時の学習を振り返り、キーワードを使用した説明文をワークシートにまとめ、発表する。</p>		②		ワークシート
2 運動と健康	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活行動・生活習慣と健康について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組むことができる。 運動と健康について理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。 <p>II 学習活動</p> <p>1 運動不足が体に及ぼす影響について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動不足が体に及ぼす影響についてグループで考え、発表する。 健康な若い人が1ヶ月間、ベッドに寝たままの生活をしたら、体にどんな影響が出てくるか、考えてみよう。 	①			観察

	<p>〈予想される反応〉 筋肉が落ちる／骨がもろくなる／体力が落ちる／病気になる</p> <p>2 運動が心に及ぼす影響について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「運動ができない時の気持ち」と「力いっぱい運動した時の気持ち」について考え、発表する。 <p>「Aしばらくの間、運動してはだめと言われ、おとなしくじっとしていなくてはいけな い時はどんな気持ちになるか」「B思いっきり汗をかいたり、力いっぱい運動したりし て、体を動かした時はどんな気持ちになるか」の2つについて考えてみよう。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <p>Aイライラする／元気がなくなる／やる気が起きない／運動したくなる／ 暗い気持ちになる／ストレスがたまる など</p> <p>Bスッキリする／気持ちいい／充実感を得る／疲れる／ストレス解消になる／ 爽やかな気持ちになる など</p> <p>3 運動の効果（身体面・精神面）と健康の保持増進のための適切な運動について説明を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【指導すべき内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動には、身体の各器官の機能を刺激し、その発達を促すとともに、気分転換が図られるなど、精神的にもよい効果があること。 ・健康な生活や疾病の予防には、日常生活において適切な運動を継続することが必要であること。 </div> <p>4 自分の生活（運動量など）について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活における運動の課題と今後の改善点について考え、発表する。 <p>①自分の生活の運動面の課題（よくない所）と②これからできる改善策（気を付ける所）を考えよう。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <p>①昼休みに校舎内にいる／エスカレーターなどをよく使う／ 部屋ではいつもゴロゴロしている／暇があれば寝る など</p> <p>②できるだけ昼休みは外で遊ぶ／階段を積極的に使う／ 部屋でも寝転んだり、寄り掛かったりしない など</p> <p>5 本時の学習を振り返り、キーワードを使用した説明文をワークシートにまとめ、発表する。</p>		<p>② 観察・ワークシート</p>
<p>3 休養及び睡眠と健康</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活行動・生活習慣と健康について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立てて説明できる。 ・休養及び睡眠と健康について理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。 <p>II 学習活動</p> <p>1 疲労が心身に及ぼす影響について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間の学習、運動、作業による疲労が蓄積されたときの心身の変化について考え、発表する。 <p>長時間の学習、運動、作業は疲労（つかれ）をもたらします。疲労が蓄積されると心や体にはどんな変化が現れますか？</p> <p>〈予想される反応〉</p> <p>集中力が途切れる／やる気がなくなる／眠くなる／効率が落ちる／ 体に痛みが出てくる／けがをする／イライラする など</p> <p>2 心身の疲労を回復する方法について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疲労の蓄積による心身の変化を回復するための方法について、肉体的・精神的の両方について考え、発表する。 <p>疲労の蓄積から現れた心や身体に起こった変化を放っておけば病気になるなど健康に影響します。心や体に起こった変化を回復するためにはどんなことをすればよいでしょうか。肉体的疲労には？精神的疲労には？</p> <p>〈予想される反応〉</p> <p>肉体的疲労には→休憩をとる／仮眠をとる／横になる／ストレッチする 精神的疲労には→気分転換をする（運動や音楽鑑賞など）／軽い運動／入浴／ 栄養補給（糖分）など</p> <p>3 休養及び睡眠の効果ならびに健康の保持増進のための適切な休養及び睡眠について説明を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【指導すべき内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間にわたる学習、運動、作業は、疲労やストレスをもたらし、心身の不調や病気を引き起こすこと。 ・健康な生活や疾病の予防には、休養及び睡眠によって心身の疲労を回復することが必要であること。 </div> <p>4 自分の生活における休養や睡眠のとり方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を振り返り、休養や睡眠のとり方についての課題と今後の改善点について考え、発表する。 <p>①自分の生活の休養や睡眠の取り方の課題（よくない所）と②これからできる改善策（気を付ける所）を考えよう。</p>	<p>②</p>	<p>ワークシート</p>

	<p>〈予想される反応〉</p> <p>①寝る時間が遅い／睡眠時間が短い／寝すぎてしまう／勉強をだらだらとやってしまう</p> <p>②毎日決まった時間に眠る／勉強時間にも計画的に休憩を入れる／規則正しい生活を心がける／早寝早起きなど</p> <p>5 本時の学習を振り返り、キーワードを使用した説明文をワークシートにまとめ、発表する。</p>			③	観察・ワークシート
4 調和のとれた生活と生活習慣病	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活行動・生活習慣と健康について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明できる。 調和のとれた生活と生活習慣病について理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。 <p>II 学習活動</p> <p>1 望ましい生活習慣について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、望ましい生活習慣と不適切な生活習慣についてグループで考え、発表する。 <p>「これまでの学習を振り返り、「〇健康である。病気にならないための望ましい生活習慣」と「×病気になるための不適切な生活習慣」について班で話し合ってみよう。これまで学習してきた内容はもちろん、それ以外の内容でも構いません。」</p> <p>〈予想される反応〉 〇望ましい生活習慣 ×不適切な生活習慣</p> <p>〇×それぞれについて、これまで学習した「食事」「運動」「休養」に関する内容が出てくることが予想される。また、他に「喫煙」「飲酒」などこれから学習する内容についても出てくる可能性がある。</p> <p>2 健康と生活習慣の関連、調和のとれた生活の必要性、生活習慣の乱れによる生活習慣病など、生活習慣が健康に及ぼす影響について説明を聞く。</p> <p>※生活習慣病のうち、「がん」については、次時で学習するため、その他の「高血圧」「糖尿病」「心臓病」「脳卒中」について説明する。(発生要因と仕組み、その症状など)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【指導すべき内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の健康は生活行動と深くかかわっており、健康を保持増進するためには、年齢、生活環境等に応じた食事、適切な運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であること。 食生活の乱れ、運動不足、睡眠時間の減少などの不適切な生活習慣は、やせや肥満などを引き起こしたり、また、生活習慣病を引き起こす要因となったりし、生涯にわたる心身の健康に様々な影響があること。 </div> <p>3 これから実践できる生活習慣の改善について考え、発表する。</p> <p>「今日の学習を振り返り、これから改善して実践できそうな生活習慣について書き出してみよう。今日からできるもの、将来実践しようと思うものなどについて書き出しましょう。また、その理由を説明できるようにしよう。」</p> <p>〈予想される反応〉</p> <p>既習内容の復習も兼ねているため、生徒それぞれの課題に応じた、生活習慣改善のうち特に重要だと感じているものが出てくると予想される。※理由も説明させたい。「自分の生活は～なので、～といった生活習慣を心がけ改善していきたい。」「自分の～といった生活習慣は、～という病気に繋がる可能性があるため、そこを改善して～という生活習慣を心がけていこうと思う。」など</p> <p>4 本時の学習を振り返り、キーワードを使用した説明文をワークシートにまとめ、発表する。</p>		①		ワークシート
⑤ がんの発生要因とその予防	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活行動・生活習慣と健康について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。 がんの発生要因とその予防について理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。 <p>II 学習活動</p> <p>1 がんに対するイメージを出し合う（ブレインストーミング）。</p> <ul style="list-style-type: none"> がんと聞いて思いつくことをグループで書き出させる。がんになる原因やイメージなどなんでもよい。※発表はしない。 <p>「がん」と聞いて思いつくことをグループ内で、出し合ってみよう。(1分30秒間)</p> <p>〈予想される反応〉</p> <p>前時で学習した「病気になる不適切な生活習慣」なども出てくると予想される。他にがんのイメージ(命の危険・手術・怖い・治らない病気 など)が出てくることが予想される。</p> <ul style="list-style-type: none"> 偏った食事 ・運動不足 ・たばこ ・胃がん ・遺伝 ・怖い 抗がん剤 ・高齢者になる病気 ・がん検診 ・なりたくない 			④	観察・ワークシート

	<p>2 「がん」と「一般的な生活習慣病」の共通点と違いについて考える。 ブレインストーミングで出てきた内容をグループで分類する。分類は「①生活習慣病と共通するもの」「②それ以外のもの（がん特有のもの）」の2つに分類し、がん特有のものについて発表する。</p> <p>ブレインストーミングで出てきた内容を分類しよう。前時で学習した「①生活習慣病と共通するもの」「②それ以外のもの（がん特有のもの）」の2つに分類しよう。</p> <p>〈予想される反応〉 前時に出てきた、「不適切な生活習慣」と「がんのイメージ（こわいなど）やいのちに関わる内容など」に分類されると予想される。 ※「がん」は、「その他の生活習慣病」と同じく生活習慣が大きくかわる病気であるという共通点に気付きつつ、一線を画す違いにも気づかせる。 ①偏った食事／運動不足／たばこ ②胃がん／遺伝／こわい／抗がん剤／がん検診／高齢者になる病気</p> <p>3 がんの発生要因、疫学、予防、早期発見・検診などについて説明を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【指導すべき内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんを引き起こすと考えられる要因には、生活習慣、ウイルス・細菌など、様々なものがあること。 ・がんを予防するには、健康な生活習慣の維持が必要なこと。 </div> <p>4 自分の大切な人（家族や将来の自分など）を守るために「がんの予防など」のメッセージを考える</p> <p>今日学習したことをいかして、大切な人を「がん」から守るためのメッセージを考えよう。大切なのは、あなたの大切な人が「①がんのことを知り」、「②がんの予防に取り組む」ようになるようなメッセージを考えましょう。</p> <p>☆“大切なあなた（相手の名前）へ”で書き出しましょう。</p> <p>・本時で学習した知識を活用して、「がんの知識」と「がんの予防」を促す、メッセージを考えて、発表する。</p> <p>〈予想される反応〉 例）“大切なあなた（将来の自分）へ” がんは、2人に1人がかかるとてもこわい病気です。でも、普段の生活習慣に気を付けていればがんになる確率を下げるすることができます。自分の体のために、生活習慣を改善してください。（そして、がんは早く見つければ約9割は治る病気です。だから40歳になったら、必ず毎年がん検診を受けてください。）自分のために、大切な人のためにお願いします。 ※上記の例は、男性（検診年齢40歳）宛て。女性宛ての場合、検診年齢は20歳以上から。 ※家族（親）宛ての場合、「禁煙」や「節酒・禁酒」などの具体的な内容も予想される。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、キーワードを使用した説明文をワークシートにまとめ、発表する。</p>	②		観察
		⑤		観察・ワークシート

7 本時の学習と指導（5／5）

(1) ねらい





- ・生活行動・生活習慣と健康について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。【関心・意欲・態度】
- ・がんの発生要因とその予防について、理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。【知識・理解】

(2) 資料及び準備するもの

ノートPC、スライド用リモコン、ビデオプロジェクター、移動スクリーン、実物投影機
ワークシート、短冊、板書掲示（単元名・ねらい）、（ホワイトボード）

(3) 展開

時間	学習内容・活動	指導上の留意点（指導○ 評価規準◆）
導入 10分	<p>1 がんに対するイメージを出し合う。</p> <p>「がん」と聞いて思いつくことをグループ内で出し合ってみよう。（1分30秒間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミングをする。 1) 各自が思いついたものを短冊に書く。 2) グループで出した数を発表する <p>※ここでは、内容についての発表はしない。</p> <p>〈予想される反応〉 前時で学習した「病気になる不適切な生活習慣」なども出てくると予想される。他にがんのイメージ（命の危険・手術・こわい・治らない病気 など）が出てくることが予想される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・偏った食事 ・運動不足 ・たばこ ・胃がん ・遺伝 ・こわい ・抗がん剤 	<p>○グループ内でできるだけたくさん出させる。数を競わせる。「質より量で勝負」</p> <p>○グループ内で同じ内容を書かないように、グループの仲間に伝えてから、書かせるようにさせる。</p> <p>○ヒントとして、「がんの原因」や「がんに対するイメージ」などのキーワードを紹介する。</p> <p>○机間指導を行い、活動が停滞している班には、ヒントを与えたり、すでに出ている意見から発展させたりするなどの助言をする。</p> <p>○グループごとの数を確認し、最も多く出したグループを賞賛させる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者がなる病気 ・がん検診 ・なりたくない など  <p>2 本時のねらいを知る</p> <p>がんについて正しく理解し、予防について考えよう。</p>	<p>○この後の学習活動で分類作業をさせるため、ここでは出し合った内容については触れない。</p>  <p>○本時のねらいを復唱させる。</p> <p>○今日の授業を通して、がんへの正しい理解と今後の生活に役立てていけるよう本時の学習への意識を高めさせる。</p>
<p>展開 35分</p>	<p>3 「がん」と「一般的な生活習慣病」の共通点と違いについて考える。</p> <p>ブレインストーミングで出てきた内容を分類しよう。</p> <p>前時で学習した「①生活習慣病と共通するもの」「②それ以外のもの」の2つに分類しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で話し合い、分類をする。 1) 2つに分類する。 2) 「②それ以外のもの」を発表する <p>〈予想される反応〉</p> <p>前時に出てきた、「不適切な生活習慣」と「がんのイメージ(こわいなど)やいのちに関わる内容など」に分類されると予想される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①偏った食事／運動不足／たばこ ②胃がん／遺伝／こわい／抗がん剤／がん検診／高齢者がなる病気  <p>4 がんの発生要因、疫学、予防、早期発見・検診などについて説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクリーン(板書)を確認しながらワークシートに記入する。 ○最近の芸能人のがん患者等の報道に触れる。 ①我が国の現状(死因・罹患率など) ※疫学 ②早期発見(5年相対生存率・検診など) ③がんとは(発生要因など) ④予防(生活習慣など) <div data-bbox="183 1368 799 1525" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【指導すべき内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんを引き起こすと考えられる要因には、<u>生活習慣</u>、<u>ウイルス</u>・<u>細菌</u>など、様々なものがあること。 ・がんを予防するには、健康な生活習慣の維持が必要なこと。 </div> <p>5 自分の大切な人(家族や将来の自分など)を守るために「がんの予防など」のメッセージを考える。</p> <p>今日学習したことをいかして、大切な人を「がん」から守るためのメッセージを考えよう。大切なのは、あなたの大切な人が「①がんのことを知り」、「②がんの予防に取り組む」ようになるようなメッセージを考えよう。</p> <p>☆“大切なあなた(相手の名前)へ”で書き出しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時で学習した知識を活用して、「がんの知識」と「がんの予防」を促す、メッセージを考えて、発表する。 <p>〈予想される反応〉</p> <p>例) “大切なあなた(将来の自分)へ”</p> <p>がんは、2人に1人がかかるとてもこわい病気です。でも、普段の生活習慣に気を付けていればがんになる確率を下げるすることができます。自分の体のために、生活習慣を改善してください。</p>	<p>○前時の学習内容にも触れ、分類における話し合いがスムーズになるよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「がん」は「一般的な生活習慣病」同様、共通点として生活習慣が大きく関係しているということに着目させたい。 ○ウイルス・細菌等、ほかの生活習慣病との違いが出なかった場合、グラフ等を使って補足の説明をする。 ○多くの生徒が持つマイナスイメージである、「場合により、生死に影響する可能性のある疾病」であることも確認させる。 <p>◆生活行動・生活習慣と健康について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。(観察)【関心・意欲・態度】</p> <div data-bbox="831 815 1477 936" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>努力を要すると判断できる状況(C)の生徒へ指導の手立て</p> <p>話し合いに参加できていない生徒には、分類の済んでいるものにも目を向けさせ、前時の学習内容を生かして分類に参加できるように支援する。</p> </div> <p>○がんに対するマイナスイメージや不安を次の学習で正しく理解していくことを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○パワーポイントの画面で説明を行う。 ○発問を繰り返しながら、正しく理解させる。疑問をできるだけ残さないよう丁寧に説明する。 ○スライドに合わせて、ワークシートに書き込みをさせる。記入の時間の確保などにも配慮する。 ○「がん」と「それ以外の生活習慣病」との共通点と違いについても気づかせる。特に今後の生活においては、共通点である「調和のとれた健康な生活習慣」を送っていくことが重要であることを理解させる。同時に健康な生活習慣による予防効果が非常に大きいことについても説明する。 ○生活習慣では、予防しきれないがんがあることについても説明する。ウイルスや細菌、環境、持って生まれた素質など多様な原因があることを説明し、偏見など間違った理解を生まないように配慮する。 ○疾病概念がほかの生活習慣病と違うことから、早期発見のための検診が必要であることをしっかり押さえておく。 ○本時の学習のねらい「がんについて正しく理解し、予防について考えよう」に立ち返らせ、正しい理解のもと、自分や自分の周りの人をがんから守るという視点を持たせ、取り組ませる。 ○メッセージを読んだ相手の、がんについての意識が高まり、予防や検診につながるようなメッセージを考えさせる。 ○机間指導を行い、活動が滞っている生徒には、本時の学習を振り返らせ、盛り込みたいキーワードを絞り込んでメッセージを作るよう助言する。 ○学習した内容をすべて入れるのではなく、内容を絞り込んでメッセージ作成に取り組ませる。 

	<p>(そして、がんは早く見つければ約9割は治る病気です。だから40歳になったら、必ず毎年がん検診を受けてください。)自分のために、大切な人のためにお願いします。</p> <p>※上記の例は、男性(検診年齢40歳)宛て。女性宛ての場合、検診年齢は20歳以上から。</p> <p>※家族(親)宛ての場合、「禁煙」や「節酒・禁酒」などの具体的な内容も予想される。</p>	
まとめ5分	<p>6 本時の学習を振り返り、キーワードを使用した説明文をワークシートにまとめ、発表する。</p> <p>※下の指導すべき内容の下線部分を埋める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・がんを引き起こす要因には<u>生活習慣</u>、<u>ウイルス</u>・<u>細菌</u>など、様々なものがあること。 ・がんを予防するには、健康な<u>生活習慣</u>の維持が必要なこと。 </div> <p>7 感想を記入し、発表する。</p> <p>8 教師の話を書く。</p>	<p>○本時を振り返らせ、キーワードの穴埋めに取り組ませる。</p> <p>◆がんの発生要因とその予防について理解したことを言ったり、書き出したりしている。(観察・ワークシート)【知識・理解】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>努力を要すると判断できる状況(C)の生徒への手立て(支援)</p> <p>ワークシートから本時の学習を振り返らせ、そこからキーワードを抜き出すよう助言する。</p> </div> <p>○本時の学習を振り返り、がんを予防するための望ましい健康的な生活習慣の必要性について再確認する。</p>

8 ワークシート

がんとその予防

がんってなんだろう?どうやってなるの?どうすればならないの?

学習活動①: フレインストーミング(3~4人のグループ)

「がん」と聞いて思いつくことをできるだけたくさん書いてみよう!
前の時間までに学んだことや関連して思い浮かんだキーワードなどなんでもOK!

本時のねらい

がんについて正しく理解し、予防について考えよう

学習活動②: 分類してみよう(さっきのグループ)

「がん」と一般的な生活習慣病に
①共通するもの②それ以外のもの(「がん」特有のもの)に分類

【基礎知識の整理】

○どんな病気…こわい・命の危険・治らないなどのマイナスイメージ

- ・日本人の死因の第(① 1)位で亡くなる方の(② 3)人に1人に相当する。
- ・生涯のうちにがんにかかる可能性は(③ 2)人に1人とされている。(男性58%、女性43%)

○早期発見・がん検診

- ・早期がんについては、(④ 9)割近くの方が治る。
- ・がんは症状が出にくい
→早期発見するために・・・症状がなくても(⑤ がん検診)を定期的に受ける必要

○がんとは…

- ・人間の体は約60兆個の細胞でできており、常に(⑥ 細胞分裂)を繰り返している。
- ・その際に、細胞の中の(⑦ 遺伝子)にコピーミスが起こるが、通常はすぐに直される。
- ・そこで直しきれずに見逃された細胞が(⑧ がん細胞)となる。
- ・体を守る働きを逃れた(⑧ がん細胞)がその後、際限なく増えてしまう病気である。
- ・がんになる危険性を増す要因としては、(⑨ たばこ)、細菌・ウイルス、

(⑩ 過度)な飲酒、(⑪ 偏った)食事、(⑫ 運動不足)などがある。

※一部のまれなものに、遺伝原因が関与するものや原因がわかっていないものもある。

○がんの予防 ※一部成人へ向けた内容も含まれます。将来の自分の姿に照らして考えましょう。

- ・5つの健康習慣を実践することで、がんになるリスクをほぼ(⑬ 半減)できる。

- ①たばこは(大人になっても)吸わない・他人のたばこの煙をできるだけ避ける
- ②(大人になったら)お酒はほどほどにする
- ③食生活を見直す「バランス・減塩・野菜と果物を多めに・熱いものに注意」
- ④適度に運動
- ⑤適切な体重維持(やせ過ぎ・太り過ぎはダメ)

★上記①~⑤の下線部分8項目に加え、ウイルス・細菌の感染対策、定期的ながん検診、身体の異常に気付いたら受診、正しいがん情報の4項目を加えた計12項目が「がんを防ぐための新12か条」である。

学習活動③: 今日の学習をいかして、大切な人をがんから守るためのメッセージを考えよう。大切なのは、あなたの大切な人が「①がんのことを知り」「②がんの予防などに取り組む」ようになるメッセージを考えよう。メッセージの相手は、自分や将来の自分でも結構です。

“大切なあなた()へ”

がんは、2人に1人がかかるとも怖い病気です。でも、普段の生活習慣に気を付けていればがんになる確率を下げることができます。自分の体のために、生活習慣を改善してください。(そしてがんは、早く見つければ9割は治る病気です。だから40歳になったら、必ず毎年がん検診を受けてください。自分のために、大切な人のために、お願いします。)

【学習のまとめ】: 今日の学習をまとめよう。()内に入る語句を書き込もう。今日の授業でわかったこと・気づいたこと、今後に生かしていけそうなことも書こう。

がんを引き起こすと考えられる要因には(生活習慣)、(ウイルス・細菌)など、様々なものがあること。/がんを予防するには、健康な(生活習慣)の維持が必要なこと。

感想など⇒

3年組番名前

3 実践事例2 <食に関する指導> (小川町立小川小学校)

平成27年度 埼玉県小・中学校食育指導力向上授業研究協議会

研究テーマ 確かな学力と豊かな心をもった児童の育成

～感謝の心をもち、バランスのよい食事のあり方や

望ましい食生活を身に付けさせる指導法の研究～

小川町教育委員会【実践中心校 小川町立小川小学校】

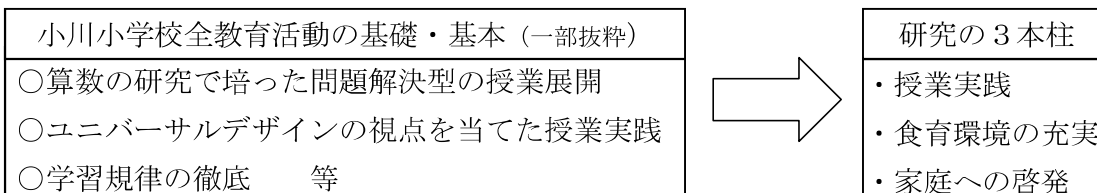
1 はじめに

近年、子供たちの食生活の乱れや肥満傾向などが多く見受けられ、子供が食に関する正しい知識と望ましい食生活を身に付けることが重要な課題となっている。本校でも、朝食を欠食する児童が増加傾向にあり、そうした児童の中には、授業に集中できない等の現状が見られる。成長期にある子供たちにとって、健全な食生活は、健康な心身を育むために欠かせないものであり、将来の食生活にも大きな影響を及ぼす。そこで本校において、確かな学力を身に付けることと豊かな心の育成には、「食育」が重要であると考え、上記主題を設定し、以下の取組を行ってきた。

2 取組

(1) 研究の概要

「小川小学校全教育活動の基礎・基本」をベースに、食育をとおして学力と豊かな心の育成をめざす授業研究を全職員が推進した。



(2) 授業研究部の取組

ア 年間指導計画の見直し

各学年、各教科領域等に位置付けた。合わせて、全体計画、食に関する指導の目標も見直した。

イ 授業実践

(ア) 第2学年 生活科「サツマイモだいすき」

1学期から大切に育ててきたサツマイモを使った料理を自分たちで決める展開とした。サツマイモに対する様々な思いを大切にするとともに、実食を通して、自分たちが育て、食する喜びを十分に味わえるようにした。サツマイモを食べるよさについては、学校栄養職員から児童に楽しく、わかりやすく説明を行った。



(イ) 第4学年 体育科「育ちゆく体とわたし」

体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であることの理解を目標に授業を行った。栄養の働きや運動、睡眠等の専門的な知識については、養護教諭が指導した。養護教諭にいつでも相談してよいことを伝え、事後指導の充実に努めた。



ウ 第6学年 家庭科「くふうしよう 楽しい食事」

栄養教諭と学校給食センターの協力を得て、リクエスト献立を考えるという単元計画とした。主菜と副菜に絞り、地場産物や旬の野菜を使うような献立を考えさせた。栄養教諭は専門的な知識の説明だけでなく、子供たちの考えた献立にアドバイスをを行い、栄養教諭の十分な活用ができるようにした。



(3) 環境整備部の取組

ア 合い言葉「食育おがわ」

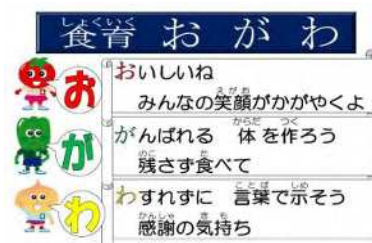
3文字の中に、本校の研究の方向性を示した。

イ 給食標語

学校給食に関する標語を全児童に考えさせ、優秀作品を掲示した。

ウ 野菜貯金

給食食材になった野菜を毎日調べ、関心を高めるとともに野菜嫌いの子供を減らす手立てとした。



(4) 家庭・地域、企業との連携 等

ア 家庭・地域との連携

- ・食育だよりの発行
- ・食育アンケートの協力
- ・簡単朝食メニューづくり
- ・食育ランチョンマット
- ・PTA 生活委員会主催による調理実習
- ・学校公開日に「食育」に関連した授業の公開



イ 企業との連携

- ・第1学年 「マヨネーズ教室」
- ・第2学年 「おなか元気教室」
- ・第3学年 「おやつ教室」
- ・第4学年 「バターづくり」
- ・第5学年 「オリジナルスパイスづくり」
- ・第6学年 「ソーセージづくり」
- ・特別支援学級 「牛乳の話」



3 おわりに

本校の課題であった朝食の欠食率が大きく減少し、さらに食育を通して学力の向上を目指して取り組んだ結果、各種学力調査等にも伸びが見られた。朝食摂取と学力の相関関係が全国学力・学習状況調査の報告から明らかにされており、本校の学力の向上についても小川小学校全教育活動の基礎・基本の実践とともに食育の取組が関係していると考えられる。食への感謝の気持ちの育成については、県が行っていた規律ある態度の達成状況の結果から、思いやりの心、協調性を身に付けた心豊かな児童が増えてきたと言える。今後も、本研究を生かし、学校、家庭、地域が連携して子供たちの望ましい食習慣の形成に努めていきたい。